

昨日（8月26日）調布よさこい23が開催された。15：00から旧甲州街道で流し踊りがあったので、かなり暑い日ではあったが、しばし見物した。



よさこいを初めて知ったのはあるアニメで紹介されていたからであった。そこでは中学女子の仲間がよさこいを見て、自分たちも参加したいと思ったことがきっかけで参加方法など調べて参加するまでを示したものであった。その中でよさこいを踊るルールを紹介があったが、「よさこい」の決まりは殆どなく、踊り方も自由、曲も自由、年齢も自由、人数も自由であることが紹介されていた。こうしたことに感銘して、私も生の「よさこい」をみたいと思っていた。最初に見に行ったのは埼玉県、坂戸の「よさこい」。確かにアニメで紹介されていた通りで、皆殆ど自由に踊っていた。阿波踊りの大会とかそれぞれ踊り方が決まっているのに比べ、みんなそれぞれの曲と踊り方をしていた。あるグループではかなり高齢者と就学前の子供が一緒になって踊っていたのが印象的であった。先頭には口上やはやし立てる役目の人が軽4輪トラックに乗って、何やら掛け声をかけ、踊り手を鼓舞していた。その後に踊り手が続く、それぞれ自分たちで振り付けした踊りを踊っていた。感激した。

以来、毎年どこかで行われる「よさこい」を見に行っている。ここ調布でも数年前から「よさこい」が開催されるようになった。まだ日は浅いものの丁度良い広さの旧甲州街道を車両通行止めにして開催されるようになった。初年度より毎年見物している。実は自分も参加したいのだが、やや激しい踊りについていけない。

踊っている連中はここぞとばかりに真顔で踊っている、盆踊りと違い、自由だ。多分人前で踊る機会などないのだろう、それなりに緊張した顔つきだ。反対に子供はのびのびとして見ていて気持ち良い。最近こうした傾向もあり、かなり色々な自治体で「よさこい」が行われるようになった。これもそのうち日本の文化になっていくのだろう！私は年のせい今年も「よさこい」が見られたと思うと少し涙ぐんでしまう。文化として残って欲しい。